

研究タイトル:

少年院「体育指導」モデル構築及び教材開発

氏名:	矢幅照幸 / YAHABA Teruyuki	E-mail:	yahaba@asahikawa-nct.ac.jp
職名:	准教授	学位:	修士(教育学)
所属学会・協会:	日本体育・健康・スポーツ学会, 日本野球学会		
キーワード:	体育科教育学, ジュニアスポーツ教育学, 矯正体育学, コーチング(野球), スポーツ史		
技術相談 提供可能技術:	・体育指導カリキュラムの設計・評価 ・ジュニアスポーツ指導・コーチングメソッドの開発 ・少年院の矯正教育領域における体育の教育的効果分析		



研究内容: 矯正教育「体育指導」の可能性と「体育」教材開発による学校・地域スポーツへの貢献

本研究室では、これまで殆ど対象とされてこなかった少年院の矯正教育における「体育指導」に関する研究をしています。少年院の「体育指導」は学校体育や社会体育とは異なる「体育指導」の顕在的・潜在的な可能性を見出すことが期待されます。また、運動に苦手意識のある生徒であっても積極的に取り組むことができる体育教材開発を行います。更に、地域におけるスポーツ活動及びスポーツに関するコーチングに関する実践研究とも接続し、学校体育・社会体育・矯正教育を横断する体育指導モデルの可能性を提示します。

少年院の矯正教育における「体育指導」

少年院の「体育指導」が、対象となる少年の心身および社会性の発達にどのような教育的意義を有するのかを明らかにすることを主眼とします。これまでの調査結果から、以下の特徴が明らかとなっています。

- ・実施時間: 学校体育の1.4～1.8倍程度の時間数が実施されている。
 - ・指導形態: 指導教官(体育が専門ではない者が殆ど)が在院者と一緒になり運動に従事する形態がみられる。
 - ・相互作用: 在院者同士で励まし合い、肯定的な声掛けが多い傾向がある。
 - ・指導内容: 行事単元を中心としひとつの種目を長期間(1～2か月程度)実施するほか、独自種目が実施されている。
- 今後は、矯正教育制度の歴史的変遷を確認し、現地調査を併せて実施することで、「体育指導」に関する矯正教育における位置づけと実践を、学校における体育と比較しながら分析します。

体育の教材開発

- 文部科学省「学習指導要領」を相対化する新しい体育教材の開発を目指します。
- ・構成: 一般的な体力や運動能力で優劣が付きにくい種目として「ターゲット型」に着目しています。(現行の学習指導要領の通常学級には含まれていない)
- ・具体的な取り組み: 運動と射撃を取り入れたバイアスロンのような種目、駆け引きを伴う対人ターゲット型であるフェンシングによる教材開発に着手しています。
- ・分析: 体育授業分析アプリ Lesson Study Analyst for PE(写真)等を活用し、成果と課題から体育用具開発やICTを活用した教材及び体育分析アプリ開発を目指します。



横断的指導モデルの構築と地域への展開

総合型地域スポーツクラブによる実践研究、野球などの球技を中心としたジュニアスポーツ教育の実践研究とも接続し、学校体育・社会体育・矯正教育を横断する体育指導モデルの可能性を提示することを目指します。これらの成果は、多領域連携へと発展し、青少年の健全育成に貢献することが期待できます。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

